

第10回三条市立嵐南小学校校名等制定委員会会議録

- 1 開 会 平成25年7月24日(水) 午前10時30分
- 2 場 所 三条市役所栄庁舎 201会議室
- 3 出席委員 宮菌委員長、上石委員長職務代理委員、宮原委員、杉野委員、小林知行委員、小野島委員、小林修委員、小越委員、阿部委員、関委員、石黒委員、鈴木委員、住吉委員
- 4 説明のための出席者
池浦教育部長、大平教育総務課長、高橋小中一貫教育推進課長、丸山教育総務課長補佐、大谷教育総務課庶務係長、野水教育総務課庶務係主任
- 5 傍聴人 4人
- 6 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 会議録の承認
 - (3) 報 告
校歌の進捗状況について
 - (4) 議 事
校章デザイン採用作品の選定について
 - (5) 次回制定委員会の日程について
 - (6) その他
 - (7) 閉 会
- 7 審議の経過及び結果
 - (1) 開会
(宮菌委員長)
本日はお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。それでは開会に先立ちまして、教育部長より一言ご挨拶をいただきたいと思っております。
(教育部長)
梅雨が上がるにはもう少し時間がかかるという情報もございますが、本日は道足の悪い中、またご多忙の中、ご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

惑をおかけしております。これは、1ヶ月後くらいに栄庁舎2階の一部と3階部分が教育センターとして生まれ変わるための工事でございますが、今しばらくご迷惑をおかけしますが、ご理解をいただきたいと思っております。完成した暁には、ぜひお立ち寄りいただければ幸いです。

本日で本委員会も第10回目を迎える訳でございますが、その間本当に貴重なご意見をいただいて有難く感じております。今日は大詰めを迎えておるわけでございますが、一体校のハード面も大体7割くらいできております。これから少しずつ仮囲いも外し、外観の全容も来月の末くらいには見えるようになってくると思っております。開校準備も、今日、小中学校では終業式が行われているところでございますが、早速明日、来年嵐南小学校に通う子どもたちのうち、条南小学校と南小学校におきまして、朝から試験登校を実施いたします。天気も気になっているところではありますが、今まで頭の中でイメージしていたものが、だんだんと具現化し、実感に変わっているなどという強い思いがしているところであります。

そんな中で、本日の校名等制定委員会におきましても、これからご議論いただいて、最後に残っております校章につきまして、できれば今回来年開校する嵐南小学校の校章1点をご決定いただければと思っております。よりイメージを持っていただけるよう、何度もご覧いただいておりますが、改めて模型を前に置かせていただきましたので、このようなことも踏まえまして、ご決定していただければと思っております。本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

(宮藺委員長)

それでは、ただ今から第10回三条市立嵐南小学校校名等制定委員会を開催いたします。本日の会議の成立についてご報告申し上げます。本日の会議は委員13人全員の出席をいただいておりますので、三条市立嵐南小学校校名等制定委員会設置要綱第5条第2項の規定により、本日の会議が成立することをまず、ご報告申し上げます。

(2) 会議録の承認

(宮藺委員長)

最初に会議録の承認について議題といたします。第9回会議録についてご発言があればお願いしたいと思います。

ないようですので、会議録につきましては承認することでご異議がございませんでしょうか。

——異議なしの声あり——

○全員異議なし承認と決定

(3) 報告

校歌の進捗状況について

大平教育総務課長が説明

(宮園委員長)

ただ今、川嶋あいさんの事務所との正式契約について、また9月16・17日に三条市においていただくということ、そして11月30日に校歌の納品の締め切りという報告をいただきましたが、ただ今の件につきまして、何か質問やご意見はありますでしょうか。

——異議なしの声あり——

○全員異議なし承認と決定

(4) 議事

校章デザイン採用作品の選定について

大平教育総務課長が説明

(宮園委員長)

ただ今の事務局からの説明について、何かご意見ご質問はございますか。進め方を含めて、あるいは先ほどの類似作品の調査について何か確認しておきたいことなどはございますか。

それでは、ないようですので、ただ今事務局から前回の会議で確認された合意の上で一つの作品を選出するという方向で進めさせていただきます。

それでは早速ですが、6つの作品が前回の選考であっております。この作品につきまして、1点に絞るということで、委員の皆様から順番に選んだ作品とその理由についてご発言をいただきたいと思います。順番として宮原委員から住吉委員、そして上石委員から最後鈴木委員まで、このような順番でお願いしたいと思います。それでは、宮原委員、お願いいたします。

(宮原委員)

前回も私、42番を推させていただきましたので、引き続き42番で。例えば5番だとか163番は、嵐南小という文字があり、校章を小さくした時に字が見えづらくなると思うのです。これらの校章を推す場合、嵐南小という文字をもっと簡略に嵐南だけにするとか、そういうことも検討してもらいたいということも、併せて発言させてもらいました。

(宮園委員長)

42番の良さというところは、いかがでしょうか。

(宮原委員)

非常にシンプルで、色がグリーンと赤を使用してありますが、これがモノクロで、胸のバッチくらい小さいサイズになってもはっきり分かります。

(宮園委員長)

それでは、小林委員お願いします。

(小林知行委員)

どれも本当に最後まで残っただけあって良いデザインだと思いましたし、最初にたくさんのデザインがある中で共通してあるものは、3校が一緒になり仲良くする

のだということから、3 というものが何か大きなイメージとなっているのかなとは思っておりました。デザインの方ですが、私が考えたのは163番の、丸にヒメサユリが中にあるものです。あまり強さを感じませんが、まず3 というのがはっきりと出ていることと、それが重なっているところにかける×3 というイメージ、例えば3校とか三条、三つのコンセプトなどが融合できるというイメージ的なものを考えて163番を考えました。ただ、163番で補正を考えると、この嵐南小という文字がどうかということです。これ、実は中心に花がきていないのです。中心が良いのかあるいは、このように少しずれた形が良いのかというのは、何か考えなければならぬと思います。

ちなみに、163番の次に考えたのは5番のこの強い五葉松です。こちらも三つというコンセプト、そして市の五葉松がモチーフになっているということ。

ただ、どれをとってもそうなのですが、嵐南小あるいは嵐南というものについて、校章と一緒にもう一つ何か考えても良いかなと思いました。つまりそれは、マークだけではなく、色々な文書に付けるロゴという形で、この嵐南小という形で良いのかどうかというのは審議した方が良いのかなとは思っております。

あと、163番は色が付いていないので、これから何か必要かと私は思いました。

(宮菌委員長)

はい、ありがとうございます。それでは、小林修委員お願いします。

(小林修委員)

私はこの委員会の途中で交代して来た委員なので、今までの経過があまり分からない中での選定でしたが、私がここにいる意味としては、小学校の校長会代表であるのもありますが、それ以上に三つの分かれる前の学校の代表だという立場でデザインを選ばせていただきました。

それで、5番か42番で決めかねているのですが、そのどちらかです。それはなぜかという、四日町小学校の卒業生なら知っているとは思いますが、現在の校章は三蓋松になっております。これは三条小学校から分かれたときに三部校であった3と、昭和30年まで建っていた三条小学校のグラウンドの脇に大きな松があり、それをモチーフにしてきつと四日町小学校の校章を作ったのではないかと考えております。その当時の東京美術大学の広川松五郎さんが三部校の校舎をイメージしながら三蓋松をデザイン化して作ったという話を聞いています。

同じように条南小学校の桜も、グラウンドや校庭周りの桜をイメージしたのではないかと思います。それで新しい学校のイメージとして、ヒメサユリが市の花だということもよく分かるのですが、この地域の方たちのシンボルが桜の木だったりすると、この学校にふさわしいのは桜ならまだしも、ユリというのはなじまないかなと思ったので、5番か42番が良いと思いました。どちらか決めるのであれば、42番をお願いします。

(宮菌委員長)

それでは、阿部委員お願いします。

(阿部委員)

私は、42番を推したいと思います。なぜこれかといいますと、他のデザインを除いていったらこれが残りました。他のデザインを見て、あまりにも3校が一緒になるところが強調されているかなと思います。今、一緒になる子どもたちや、あるいは地域、保護者それぞれが一緒になって嵐南小学校になるという意識は強く、嵐南小学校の一つの歴史としては大事なことかと思うのですが、それがいつまでも言い継がれていくものなのかということ。むしろ、42番のコメントにある、嵐南という場所、それから将来活躍していこう嵐南小学校の卒業生、そういったものをイメージして描かれているデザインが良いかと思います。それから、ヒメサユリをデザインされている作品がいくつかありますが、三条市の花ヒメサユリというのは、あまりにも安易な考え方かと思います。この学校がもし、ヒメサユリが咲く五十嵐川の上流の学校であるならなじめるかとは思いますが、今新しくできる嵐南小学校にヒメサユリのデザインというのは、そぐわないと思います。

(宮菌委員長)

では、石黒委員お願いします。

(石黒委員)

163番をお願いします。三つの学校が一つになるという思いと、たまたまヒメサユリでございますが、なにか希望が持てるイメージを作者は持っていると思いますので。

(宮菌委員長)

では、住吉委員お願いします。

(住吉委員)

色々見ていると私の中で決めかねるポイントがあります。気になっているのは、5番、42番、51番、163番ですが。特に51番は、同じように補正した状態で見たいという思いがあります。3校の校章をあわせた、すごく小学生らしい思いと願いが書いてあるので、それを補正した状態で見比べると51番が良いのではないかと思うのです。すっきりとしたイメージで5番も捨てがたく、ただ色合いが何で緑と青なんだろうと。松の葉だからなんでしょうけど、水色は川をイメージしたのか、色が実際校章として他のものとあわせたときにどうなるのかというのが分からないので。

決まったら51番は、補正した状態で見られるのでしょうか。

(大平教育総務課長)

先ほど説明させていただきましたが、補正を想定した中でご発言をいただきたいと思っておりますし、決定されればどういう形で補正をするかについて意見をいただき、その形が最終ということでお示しはできますが、今はまだ途中経過でございますのでなかなか難しいところであります。今回は補正を踏まえて選んでいただければと考えておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(住吉委員)

51 番で。

(宮藺委員長)

はい、分かりました。それでは、上石委員お願いします。

(上石委員)

私は、5 番を選ばせていただきます。理由は、42 番も良いのですが、少し不安定な気がします。5 番はどっしりとした感じがします。そして、163 番はヒメサユリを図案化していますが、先がとがった花びらはどうかなと思いますし、ヒメサユリが生えるのは下田地区の一部の地域ですので、何も南四日町の学校にヒメサユリは関係ないような気がいたしました。183 番も良いとは思ったのですが、鳥が羽ばたいていくような感じがします。私は 5 番を選ばせていただきました。

(宮藺委員長)

はい、ありがとうございます。では、杉野委員お願いします。

(杉野委員)

私も 5 番でお願いします。考え方のプロセスは皆さんと大体同じで、5 番か 42 番かと思ったのですが、上石委員と同じように、シンプルで安定感があるという意味で 5 番を選ばせていただきました。

(宮藺委員長)

はい、それでは小野島委員。

(小野島委員)

42 番で。同じような理由で、5 番か 42 番かと思ったのですが、5 番の嵐南小という漢字がかたいイメージがあり、色合いよりも気になったものですから。42 番は、五十嵐川の流れをイメージできるので。確かに少し弱々しい面もあるという気もしますけれども。

(宮藺委員長)

はい、では小越委員お願いします。

(小越委員)

42 番と 163 番で迷ったのですが、163 番で。42 番は何回読んでもコメントとデザインが結びつきません。163 番が一番すっきりしているのではないかと思います。ただ、できたら先ほど話がありましたように、字が黒いので小をとっていただいて嵐南だけにすれば、もっと良いのではないのでしょうか。

(宮藺委員長)

では、関委員お願いします。

(関委員)

私は 183 番でお願いします。うちの子もこの学校に入るので、自分の子が身につけたらどんなのが一番良いかなと子どもを想像しながら考えておりました。42 番は子どもうけしない気がして私は推せないと思ったのが一つ。163 番も少し似ているのですが、小学校の小の字がいらなと思ったのが一つと、文字がデザインの上にくっついてしまつてつぶれた感じがするので。183 番は、縮小した場合にも対応し

ていると感じますし、非常に柔らかい印象を受けましたのでこちらが良いと思いました。

(宮菌委員長)

それでは最後、鈴木委員お願いします。

(鈴木委員)

先回、用があって欠席してしまい申し訳ありませんでした。資料をいただいて色々考えた結果、5番と163番に絞って考えました。163番はヒメサユリというのが嵐南小学校に対して下田のイメージがあるものですから、最終的には5番に決めさせていただきました。五葉松のイメージ、これは三条にとって非常に親しみのある木であります。ここにも書いてありますが、松から手のひらを伸ばしゆく生徒の姿を表していますと。色彩についてはまた検討する余地があるのかどうかは分かりませんが、これからいくと、五葉松を用いて三つの小学校が伸びていくそんなことも表していますので、今の時代にふさわしいデザインかなとそんな思いで5番を選ばせてもらいました。

(宮菌委員長)

はい、ありがとうございました。ただ今12名全員から投票いただいてその理由などを述べていただきました。1次選考で6作品ございましたが、そのうちただ今推薦いただいたものは5つで、100番は挙がっていないのでこの段階で除くということに進めさせていただきたいと思います。

最初確認しましたが、合意で行きたいと思いますので、単純に投票という形で進めないで、それぞれ意見を詰めていきたいと思います。見方、考え方、評価の仕方、それぞれの立場があると思いますのでこれから聞かせていただきたいと思いますが、まず、今投票いただいたところで行くと、42番が4票、163番、5番が3票、51番、183番が各1票となっておりますけれども、いかがでしょうか。まず、51番、183番というところからのご意見を伺いたいと思うのですが。

(住吉委員)

正直、51番は補正しがいがあるなと感じたのです。他の作品は、多少の補正はありますがここからイメージが全く変わってしまうということがないけれども、51番は手書きなので、中心に寄ったり長さだったり大きさだったり補正してみたら良いのかなと。だた、補正するとごちゃつくかなという恐れも感じるのですが。3校が少しずつ入っているので子どもには一番分かりやすいのではないのでしょうか。

(宮菌委員長)

手書きとそれ以外なものとの違いがあるということで、今の51番を補正して取り上げたらもっと良くなるのではないかというご意見でありましたが、それについていかがでしょうか。

(上石委員)

こうやって出てきたのを見ると、これが原型なのでしょう。そうすれば51番はこれが原型であり、与えられたこの資料だけで、自分の脳裏の中でこの51番を補正

するとどうなんだと私は考えました。

(宮菌委員長)

例えばこれを補正したときに、出されたデザインとイメージが変わってくるのでしょうかというご意見がありましたけれども、いかがでしょうか。

(住吉委員)

出されたイメージが変わるということは、例えば163番も補正したり、5番も色を変えると感じが変わるということと同じなんですよね。そうすると、最終的にどこら辺まで。

(小林知行委員)

例えばこれが完成形であるとする、最もきれいな完成された最終形での判断になると思うのですが、補正がということもあるとすると、ここにあるもの全部補正し直した方が良いと思います。例えば色も、先ほど水色がどうだとか緑がどうだとかありましたので。それと51番は手書きですので、ごちゃごちゃしているようにも見えますけれども、意外とまとめると綺麗なのかもしれないですよ。それと、5番と163番に嵐南小とありますけれども、皆さんの意見の中で、嵐南だけの方が良いのではないかという意見がいくつかございましたし、私の意見で、その嵐南という文字の字体が、明朝体かブロック体かで、全然イメージが違ってきますから、そういったことも勘案すると、ここまで5個並んでいるのであれば、少なくとも補正をきちんとして、嵐南小なのか嵐南なのかそれとも文字がないのか、そういった統一をかけて、もう一度パターンを作っても良いかもしれないとは思いますが。この同じ土俵に上がったら、少し51番が可哀そうです。

(住吉委員)

それは、私も感じました。やっぱり同じ状態で。そして、皆さん何度か言われたとおり、補正が入るってことはやっぱり見た目が変わってくると思うので。ものすごく51番を推しているわけではないのですが、補正した状態で見てみたいです。5番も色が変われば、イメージが変わるのではないかという思いがあります。

(小林知行委員)

今回100番がはずれましたけれども、これがデザインを勉強されている方のやり方で、イメージのカラーがきちりとあることと、使い方で白黒、反転にしているものがあります。カラーで常に使うわけではありませんから、白黒どちらかになることもあるかもしれませんし。でも、本来の色はこれなんだという使い方の説明がしっかりとされて、多分全部イメージが違うと思います。白黒と色を付けたものでは、163番のヒメサユリに色が付いているものと付いていないものでもイメージが違うと思います。5番の嵐南小というのは非常にどっしりとした良いイメージですけれども、この色をとって白黒にしたら強すぎるかもしれないですね。これはやってみないと分からないですが。42番の人気のあったこの作品ですが、この緑と赤になっているところに、多分イメージの理由があるのかもしれないけれども、これを全部黒くしたら、この丸何の意味があるのか分からなくなってしまうかもしれ

ません。そしてこれが小なのか嵐南なのかでイメージが違ってくると思います。方法論なのですが、ここで決めても良いと思いますし、ちゃんとした一定の条件の土俵に、もう一度補正をかけて上げ直すのも一つの方法かと思います。

(宮菌委員長)

今のご意見を伺いますと、補正をかけたうえで最終判断した方が良いのかもしれないというご意見でした。とりあえず、全体のご意見を聞いたうえで、補正をかけるのが良いのかどうかご意見も伺いたいと思うのですが。183 番を推した関さん、いかがでしょうか。

(関委員)

私は、子どもが付けたらどれが良いかなということが一番の主なので、付けるのであればこれが良いと思いました。ヒメサユリに関しても、この地域にそぐわないというのも確かにそうだと思うのですが、小学生がどう感じているかだと思うのです。私は四日町小学校出身ですが、小学生だった頃は校章を見ても正直、何にも考えていなかったです。五葉松に関して言えば、市の木だからこれを使ったんだという印象でしかなかったのですが、現在の三条市の花がヒメサユリであればこれを使っているんだと思うことで十分ではないかと思います。3校が統合したとか、この地域がどうだということは、小学生はそこまで意識が及ばないのではないかなと。むしろシンプルに今現在の市の花はこれだよというのが良いのかなと思ったことと、183 番は非常に柔らかい印象を受けたので。文字が柔らかいのですよ。他のデザインを見ると、確かに 163 番も丸っこい字でそういう意味では柔らかい印象にはなるのですが、183 番は筆で描いたような感じがあるので、日本人ぽくて良いかなと思ったことと、5 番は少し角ばってしまって強い印象を受けたこと。42 番に関して言えば、これデザインの説明を読まないで何のことか良く分からなかったのです。それと、やってはいけないのですが、うちに3人子どもがいて、中3、中1、3歳なんですけれども、この最終候補の作品を見せたときに、42 番は「えー、何でこれが残ったの。」と、一番人気だと言ったら、「絶対ない。」と言われてしまいました。中学生の感性はそうなんだと思った次第で、私も 42 番にはなってほしくないとは思って 163 番にしました。

(宮菌委員長)

はい、ありがとうございました。今の関委員の意見に対して何か質問などございますか。

(小林知行委員)

これを使う主体を考えるとというのが最もかなっていると思いました。花、ヒメサユリ、そして五十嵐川、五葉松、ではこれがどういう意味なのかとかいうことを論じるよりも、まず子供ありきという原点みたいなところを考えた方が良いのかなと感じました。

(宮菌委員長)

ありがとうございました。これを日常身につける子どもの視点から見たらどうか

ということでした。

今は、少数の作品に推薦していただいた方に意見をいただきましたが、他の作品についても良さなど伝えていただけたらと思います。

(池浦教育部長)

委員長、少しよろしいでしょうか。先ほど補正の話が出ましたが、私どもの補正の考え方としては、補正というのはあくまでも補正だと考えております。デザインされたコンセプトを基に新たな形になるようなものを作ることは、補正だとは思っておりません。例えば一部を修正する、あるいは色合いを変える、この範囲が我々が持っていた補正のイメージでした。今までの議論を聞いていると、各委員のおっしゃることはもっともだとは思いますが、そこで持っている要素で新たなものをくみ上げるということは私どもは、補正として想定していなかったということですので、よろしく願いいたします。

(住吉委員)

という、小学校の小をとるとかそういうことですか。

(小林知行委員)

これは補正の必要があるでしょう。嵐南にするのか嵐南小にするのか。

(池浦教育部長)

ここでまずは1点に絞っていただいて、その他の意見として、嵐南小の小がいらぬとか、字体をこう変えたい、これが私どもが思っていた補正の範囲であります。51番の例はおっしゃるとおりだという気持ちは全く同じであります。ただそれをいいところ取りをして新たなものを作るということになると、それは我々が補正というイメージでは持っていなかったということですので、難しいところなのですがその辺の温度を感じていただければと思います。

(住吉委員)

そういう範囲の補正であれば、私は5番か183番かなと思います。

(宮藺委員長)

では、51番というところで今までご意見をいただいていたところですが、補正の範囲というところを受け入れていただいて、それを前提に住吉委員は、51番は取り下げても良いということですね。

(住吉委員)

はい。

(宮藺委員長)

そうしますと、5番か183番かですが、どちらかってありますか。

(住吉委員)

では、5番で。

(宮藺委員長)

今、関委員の183番もありますけれども、42番、163番、5番と絞られてきているところでもあります。補正をかけるといった場合でも、大きく修正するということ

はないということです、こういうところを補正をかけた方が良いのではないかと
いう意見などもいただいたうえで、どれが良いかというところをもう少し詰めて
いきたいと思います。いかがでしょうか。

(上石委員)

補正という言葉と修正という言葉の意味合いはどう違うのでしょうか。

(池浦教育部長)

特に辞書を引いてきたわけではなくて大変恐縮ではありますが、補正というのは
あくまでも補うということで直すわけではないということ。それから、ほんの一部
に手を加えることによってそれが完成形になるというような意味合いで、私はお話を
させていただきました。

(宮菌委員長)

使う子どもの立場から詰めていってはどうかというご意見もありました。

今の時点で4点ですけれども、例えば、42番に対してデザインの意味が伝わりに
くいのではないかと意見が出されていましたが、それについていかがでしょう
か。

(宮原委員)

先ほど阿部委員がおっしゃられたように、あまり3校統合ということに全面から
主張していないといえますか、3本の線で主張はしていますが、あまりそういうこ
とにこだわらない方が良いのではないかとというのが私のももとの考えにありまし
た。それと、色々なところに校章が入ってきますが、そこにあえて斬新なデザイン
を選んで、私は42番にしたということです。これがベタで黒になっても別に太陽の
意味だとかそんなことにこだわってなくて、何となくこれが新しい学校の校章な
んだねって言われれば、それで済んでしまうことだと思ったので。それと、ヒメサ
ユリというのはしっくりいかなかったという思いがあって排除したところがありま
す。本当のところ最後まで私が迷ったのが、5番と42番です。それでも、既製のデ
ザインみたいにこだわらない方がいいなと思っていたので、42番にしました。校章
の意味は分からないかもしれないけど、それを解説するのも面白いことだと思います。

(小林修委員)

宮原委員が言われたように、ヒメサユリにしっくりこなかったということと、デ
ザイン的には42番かなという感じはしました。

(宮菌委員長)

42番で後は何かご意見ございますか。

(小林知行委員)

42番のデザイン的な話ですが、毎年、タイポグラフィ年鑑といって、その年に制
定された目に付いたマークだけを載せている本があります。タイポグラフィ年鑑は
年間が出るので見ていると、その時代を象徴したマークの特徴がよく分かります。
例えば新潟県のマークは皆さん覚えていらっしゃるでしょうか。周りの半円状の円はよ

く見ると「ガ」という文字と「タ」という文字でできています。このように文字を図形化した時代があったのです。それは昭和30年から40年くらいなのですが、農協のマークも稲があって周りを丸くしていましたね。何か象徴しているものをマークとしている時代がありました。その後、大体1980年代くらいから企業とかプロモーションのCIと言いまして、色々な会社がこういった丸いマークを付け始めたのです。CIとは会社という意味のCとマークという意味のIですが、例えばこんなマークご存知ですか。本間組のマークです。これに意味合いを付けるというのが流行りました。そして、今はない銀行なのですが、新潟中央銀行。新潟の「NIII」なんです。その時のこの会社のコンセプトは、みんな同じ方向を向いているような融資だとかはしません。我々は少しよそを向いたことをしますよというコンセプトなのです。こういうマークの遊びみたいな時代がありました。こんな時代を象徴したデザインがあるのですが、この42番のデザインというのは、実は大体20年くらい前のこのCIが流行ったときの形なのです。ですから、校章デザインの説明を読んでも分かれると思いますが、ほぼ意味は分からないのです。分からなくていいんです。42番は、きれいで強くて希望がある、そういうイメージなのです。大体1980年から2000年くらいまでこういうのが流行っていました。今どうかというと、そういう意味では少し古いかもしれないです。でも恐らく、我々の世代から見ると、一番分かりやすいです。強いし何でも付けられそうだし、馴染みがあるし。それは新潟中央銀行だったり本間組だったりする時代の我々の考えで、これを小さい子が見て、これありえないでしょという話はよく分かるのです。これ親父の世代ですよ。そういう時代時代のデザインがありますよという話をしました。

では、かといって5番、163番、183番は新しいデザインかということ、実は全然新しくありません。こういう風にモチーフを使うのは、古い新しいではなくてオーソドックスなデザインの決め方なのです。何かを重ね合わせるというやり方の手法ですから、途中で消えました51番、三つ一緒にしましたというのは、デザインの手法です。

ですから42番は、ものすごくイメージ先行であると。42番のイメージがグランドデザインに沿っているものであれば私は良いと思います。

(宮藺委員長)

これから子どもたちがずっと使っていくものですから、古いデザインであってもこれから時代を先取りしていくということもあるかもしれませんし、そこら辺は意味合いが変わってくるかもしれませんが。

なかなか意見が終息しない状況になっておりますが、事務局お願いします。

(池浦教育部長)

ご議論を深めていただきたいという思いでございますが、スケジュールというものもございますので、ではどうやって決めるのかというあたりも含めてご議論いただくと大変ありがたいと思っております。

(宮藺委員長)

はい、分かりました。一応前提としているのは、合意で決めていくということです。簡単に投票だけで決めることはしないということですが、ただ、一つに絞っていく上でまだまだこのままだと時間がかかりそうです。少し三つくらいに絞り込んでいくという形をとらせていただいてもよろしいでしょうか。183番がぜひともこれでなければいけないというご意見が他にもあれば、このまま残すということもありますけれどもいかがでしょうか。

(小林知行委員)

私は163番を推していたのですが、183番はなかなか捨てがたいところではありましたが、残していただきたいと思います。プレゼンテーションしていただいた、子どもがというところがすごく分かる気がします。この二つだなどと考えていたのですが、子どもはと考えると183番だと思います。ただ、私は大人ですので163番を選びました。ですので、もう少し何かしていただきたいです。

(宮藺委員長)

183番も残してもらいたいという意見で、まず子どもの視点からというご意見が出てきていますが、そういう立場から見たときにもう少し絞り込んだ方が良いのではないかと、というようなご意見はいかがでしょうか。

(上石委員)

183番が残ることになると花はヒメサユリだと。ヒメサユリが南四日町に合うのか、まずそれを考えました。ヒメサユリは下田の一部の地域にしかありませんので。

5番と42番を比べたときも、私は校旗を見たとき落ち着きのある学校だと感じるのが5番を推した理由です。42番は並んだ校旗を見たとき、斬新なデザインかもしれないけれども、子どもたちの気持ちも動くような気がするので、やはり落ち着きがある5番が良いと思いました。

(関委員)

それであれば、四日町小学校は五葉松とどうして縁があるのでしょうかとなってしまいます。要は、市の花というので分かりやすいという意味で推したのです。

それと、私の印象ですけれども、5番は最初いいかなと思ったのですが、水色とこの形で河童の水かきの手を想像してしまったのです。これは子ども達を河童にさせる訳にはいかないなと思って。

私も小林委員と一緒に、163番と183番で迷って183番にしたのです。

(宮藺委員長)

ではここで、少し絞っていきたいと思うのですが、今4点残っております。最終決定ということではなく、今までの意見を聞いた中で意見の修正があればそこを確認していきたいと思います。

42番が良いと思われる方は、挙手をお願いします。はい、4人ですね。

それでは、163番が良いと思われる方は。はい、3人ですね。

では、5番が良いと思われる方。はい、4人。

最後に、183番が良いと思われる方。1人ですね。

最初の意見は、なかなか変わりませんね。事務局、少し時間を置くだけの余裕がありますか。

(池浦教育部長)

皆さんのご都合がつけば。

(宮藺委員長)

そうですね、今日の限られた時間の中で詰めるとなると、結構無理がありそうな気がします。事務局、日程的にリミットはいつまで、いつ頃に開催の可能性が あるかということを提案できますか。

(6) 第11回制定委員会の日程について

大平教育総務課長から提案があり、委員長が諮り次のとおり決定する。

日時 平成25年7月29日(月) 午前10時

会場 三条市役所栄庁舎 201会議室

8 閉 会 午前11時59分